真理の教え

令和六年二月法話　薬師寺 管主 加藤朝胤

葬送の方法

火葬　土葬　水葬　風葬

火葬

死体を焼いて遺骨を葬る葬法

印度では人はガンジス河より生まれ、ガンジス河に帰ると信じられています。更に死者は、火葬によってのみ天に帰ることができる為、火葬にした遺骨や灰を母なる（聖なる）河ガンジスに流す事は、死者に対する最大の敬意であるといわれています。

茶毘　jhapeti　焼身　焚焼　火化

佛陀　涅槃　西暦紀元前四八六年二月十五日

お釈迦様の最後の教え

「自灯明 法灯明　自帰依 法帰依」

弟子達よ、おまえたちはおのおの自らを灯火とし、自らをよりどころとせよ。この法を灯火とし、よりどころとせよ。

教えの要は心を修めることにある。欲を抑えて己に克つことに努めなければならない。わが身を見てはその汚れを思って貪らず、苦しみも楽しみも共に苦しみの因であると思ってふけらず、身を正し、心を正し、言葉を誠あるものにしなければならない。貪ることをやめ、怒りをなくし、悪を遠ざけ、常に無常を忘れてはならない。

弟子たちよ、この教えのもとに、相和し、相敬い、争いを起こしてはならない。水と乳のように和合せよ。水と油のようにはじきあってはならない。この教えのとおりに行わない者は、私に会っていながら私に会わず、私と一緒にいながら私から遠く離れている。また、この教えのとおり行う者は、たとえ私から遠く離れていても私と一緒にいる。

八分舎利

マカダ国王のアジャータサッツ　ヴェーサーリのリッチャビィ族
カピラバスのシャカ族　アッラカッパのブリ族
ラーマ村のコーリャ族　クシナガラのマッラ族
ヴェーダディーパのバラモン　パーバーのマッラ族
ドーナバラモンは舎利瓶　バラモン学生ピッパラーヤナは灰

お釈迦様の遺骨の発見

一八九八年英人ウイリアム・C・ペッペが印度のネパール国境近くのピプラワにて佛塔を発掘。水晶製の舎利容器（高 8.9 ㎝　直径 8.3 ㎝）を発見

ペッペはそれらの発掘品をイギリス政府に寄贈。政府はシャム王室、カルカッタ博物館、大英博物館に寄贈すると共に、残りをペッペ氏に返還。更にシャム王室はビルマ、セイロン、日本に佛舎利を分骨。シャムから分骨された佛舎利は、明治三十三年（一九〇〇）名古屋に覚王山 日泰寺を建立し奉安

日本における火葬の歴史

道　昭　最初に火葬された人　文武天皇四年（七〇〇）三月十日

持統天皇　最初に火葬された天皇　大宝二年（七〇二）十二月二十二日

○ 埋葬の方法にこだわりがない
○ お釈迦様が火葬にされたことに因み、火葬に違和感がない
○ 土葬で埋葬するだけの土地が確保できない
○ 墓は「家」単位と考える為、火葬にして一族同じ墓に入れる

佛壇のはじまり

日本書紀　天武天皇十四年（六八五）三月二十七日

国々で家ごとに佛舎（ほとけのおおとの）を作り、佛像と経典を置いて、禮拝供養せよ

土葬

死体を焼かず土中に穴を掘って死体を埋める葬法

ユダヤ教およびこれに起源を持つイスラム教・キリスト教では、最後の審判における死者の復活の教義を持つ為、火葬を禁止している。